

2007年AIGオープン(ジャパンオープン)観戦記

機会あって10月5日(金)にジャパンオープンを観戦しました。

センターコート第1試合。

ウインブルドン覇者ビーナス・ウィリアムス対ウォズニアッキ、結果は6 - 3・7 - 5でウィリアムスが勝ったがウォズニアッキの将来性を感じさせる良い試合でした。

ただ実際に女子世界トップの試合を生で観戦するとストロークはさすがにすごい。ただネット際のボレーは少し物足りなさを感じさせますが、その代わり浮き球に対するドライブボレーの安定感と破壊力には圧倒されました。この試合でのウィリアムスのドライブボレーは5回以上あったと思いますが全てノータッチのエースであったと記憶しています。

(打つ直前にコースが変えられる様なドライブボレーですね)

また第2セットの2 - 4ビハインドから何気なく挽回してしまうビーナスの集中力と落ち着きには感心するばかりでした。(余裕が感じられました)



ビーナス・ウィリアムスもウォズニアッキもテレビで観るのと実際ではスタイルの良さにはびっくりです。まあ個人的にはウォズニアッキに応援してしまうのは仕方ないかな？



審判のイン判定に抗議、座り込むウォズニアッキ。確かにアウトに見えましたが・・・



転倒によりテーピングするウォズニアッキ 個人的には応援していたのですが・・・

センターコート第2試合。

ビーナスの相手を決める女子準決勝第2試合は、第5シードのラザノと第8シードのペンネッタの顔合わせ。ともに日本では無名と言うべきだが、森上亜希子や中村藍子と並ぶ「8本シード」の実力者だ。ラザノは先週、中国・広州でツアー初優勝を遂げており、ペンネッタは2004年に16位まで上がった実績を持つ。強い日差しの中で始まった試合は、2時間を超えるタフマッチとなった。ただ男子のBEST4を控えファイナルセットには観客の「早く終わって欲しい」と言う雰囲気は否めませんでした。(松岡修三も解説、頑張っていました)



ビルジニ・ラザノ



フラビア・ペンネッタ

結局試合は4 - 6・7 - 5・6 - 3でラザノが勝利。決勝でもビーナスをフルセットで破り優勝しました。良い試合でした。



センターコート第3試合。

フェレールの動きがいい(ナダルに勝利しているのもうなずける)。サーブ&ボレーが武器で、速いサーフェスを得意とするロペスにとって、有明コロシアムのコートは有利な材料になるはずだった。過去3度対戦している両者は、クレーコートでフェレールが1勝し、ハードコートではロペスが2勝を挙げていた。しかしそのデータは、今日の対戦には当てはまらなかった。



同国対決となったロペス、男前ですね

フェレールのフォアの安定感はNO.1

ロペスのサウスポーから繰り出されるサーブは非常に驚異です。ただ試合でのサービスは少し力が入っていたようで安定感に欠けました。ただ練習でのサービスの切れは非常に良く、サーブ&ボレーの選手が少ない今日、今後頑張っ欲しい選手であると感じました。

センターコート第4試合。

今回人気NO.1のヒューイットの登場、試合前の練習から覗いてみました。新しいコーチのトニーローチと共に今回の試合にかける気持ちが伝わってきました。



アップでも感じた事はフォアで以前までの打ち方に見られた、反り返る様な打ち方を修正し、体重を球に乗せるようにしている様になっている事が気になる点でした。

ただ今回の対戦相手が身長208cmのビックサーバー、イボ・カロビッチであったのが不幸であったと思われます。(過去にも分の悪い相手であり、今年はさらに好調との事でした)



何だ！この身長は？遠目で見てもヒューイットが子供に見えてしまいます。

結局試合は6 - 7、6 - 7。いかにサーブだけとは言え、前日の試合も7 - 6、6 - 7、7 - 6
と言う試合は観客も呆れる試合展開でした。

第1セットを6 - 7で落としたヒューイトは自分のラケットを2回もコートにたたきつけ壊して
しまう程でした。ただ次回の相手がリターン率NO.1のフェレールであり苦戦は免れないも
のであると思われます。

この時点で時刻は夜の7時過ぎ、この後2試合を観戦して浜松に帰るのは厳しいのでここで会場
を後にしました。

今回初めてジャパンオープンを観戦し、世界トッププロの試合を観戦する事が出来ました。一
番強く感じた事はショット自体は他の選手と変わらないものの(カロビッチのサービスは別)そ
の安定感、コートカバーリングがやはり違います。技術的には及ばないものの安定したショット
とフットワークを磨けば勝てるテニスが出来ると確信しました。